

国語科のみならず各教科等において、自由に記述する学習活動は比較的多いと思われます。自由記述には、子供たちが束縛されることなく豊かに表現できる良さがあります。一方で、情報化の進む現代社会においては、適切な付与条件に即応し、短時間に読み、短時間で記述することが求められます。自由な記述と厳密な規定・条件等に即応した記述とを区別した指導が必要です。



自由な記述ばかりではなく、条件をつけて書くようにしてみませんか？



まとめ・振り返り



日記



作品のコメント欄



記録カード



テスト等の記述問題

条件を検討する際、次のような観点が考えられます。

時間／字数／文章の形態や種類／事象・グラフ・図・式等との関連／文体（常体・敬体・一人称・三人称等）／テーマ／対象／使用語彙／要約／引用／事例／技法（反復・倒置・比喻・反語等）／構成（頭括型・尾括型・双括型、現在→過去→現在）等

参考文献：樺山 敏朗（2022）.『読解×記述』.教育出版株式会社

条件を設定した他教科での学習活動の例

### 例1 本時のまとめを書く（小学校第5学年 理科 「流れる水のはたらき」）

【めあて】上流と下流で見られる石の大きさや形がちがうわけを、流れる水のはたらきと関係づけて説明しよう。

【まとめを書く際の条件】

- ①流れる水のはたらきと関係づけて書くこと。
- ②「浸食」「堆積」「運搬」のうちから適切なものを1つ選び、文章の中で使うこと。
- ③60字以上120字以内で書くこと。

【まとめの記述例】

上流にある石は大きくて角ばっているが、中流、下流へと運搬されるときに、流れる水の働きによって割れたり削られたりするため、下流にある石は小さくて丸い。

### 例2 観察カードを書く（小学校第2学年 生活科 「やさいをそだてよう」）

【観察カードを書く際の条件】

- ①「葉」「茎」「つぼみ」「花」のうち、1つを選んで書く。
- ②前回観察したときと変わったところが分かるように書く。（大きさ・太さ・数・色・形・においなど）
- ③様子を表す言葉（ぎざぎざ・べとべと・つるつるなど）を使う。

【観察カードの記述例】

ミニトマトのはっぱが3まいふえました。はっぱのぎざぎざが大きくなりました。さわるとちくちくしました。小さいはっぱはきみどり色で、大きいはっぱはこゆいみどり色です。はっぱがもっとふえてほしいです。



記述量や記述にかける時間制限に一定の負荷を求めつつ、目的に応じて記述した結果が必要な要素（内容や形式）を具備しているか、他者が理解できるか否かなどを、学習者自身が主体的に問い直し、問い続けられるように働きかけることが重要です。



条件があると一見不自由なようですが、場面や内容を限定されることから、何を書けばよいか分からない子供にとっては有効な支援となります。さらに、目的や条件を踏まえた記述になっているかどうかという視点をもとに、他者から適切なフィードバックや評価を受けることが可能になります。